

令和6年 湖西市議会3月定例会

# 市長施政方針

令和6年2月16日

本日から、湖西市議会の令和6年3月定例会が開催されるにあたり、新たな年度に向けた、「施政の方針」と「主要な施策の概要」を申し上げ、市民の皆様、並びに議員の皆様のご理解、ご協力を賜りたいと存じます。

(能登半島地震から1か月半)

まず初めに、元日に発生した能登半島地震から、1か月半が過ぎました。被災地では、現在も断水が続くなど厳しい避難生活を強いられており、改めて被災された皆様にご心からのお見舞いと、早期の復旧・復興をお祈り申し上げます。

湖西市からも、発災直後の元日夜から緊急消防援助隊の派遣、給水車、倒壊家屋の調査、避難所運営支援のため看護師、栄養士、保健師、行政職員を継続して2月14日時点で延べ47名を派遣させて頂いております。また市営住宅での受け入れ、募金箱設置など、出来る限りの支援を継続してまいります。加えて全国の市町村長・県知事など首長約300名による有志の組織である「活力ある地方を創る首長の会」を通じ、石川県七尾市の茶谷市長からの要請を頂き、市備蓄からペットボトル飲料水3,900本を送らせていただきました。輸送には、災害時連携協定を結んでいる静岡県トラック協会様のご協力により、迅速に現地への輸送手配を頂きました。改めて関係団体の皆様のご尽力に感謝申し上げます。現時点で災害協定を締結頂いている団体・事業者は127件であり、引き続き関係する皆様と連携し、平時からの備えに努めてまいります。

また来月3月11日には、夜間防災訓練を予定しています。市民の皆様と自主防災会等による自助・共助、地域の防災力の向上に繋げていきたいと思っております。頻発する各地での災害を教訓に、改めて自分たちで出来る防災対策や備えをお願いいたします。

(基本方針)

平成28年、市長に就任してから7年あまりが過ぎました。その間、全世界をパンデミックに陥れた「新型コロナウイルス感染症」、ロシアのウクライナ侵攻をはじめとした社会情勢の緊張に伴う原油高、物価高騰、マイナンバーカードの普及等に伴う社会生活のDX推進といった、社会経済の流れが大きく変わった時期でもありました。このような中、市民や事業者の皆様、議員各位のご理解ご協力をいただき、湖西市政に全力投球で進めてまいりました。令和6年度も引き続き、10年後、50年後の社会を中長期的に見据え、初心を忘れることなく「職住近接」の推進による持続可能なまちづくりに向け、引き続き全力投球してまいります。

それでは、令和5年度の振り返りと、令和6年度の主な取組を申し上げます。

(令和5年度の振り返り)

令和5年度には

- ① 5月に新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、地域に賑わいが戻ってまいりました。

- た。他方でコロナ禍や世界情勢の緊迫により、物価高騰の影響を受けた方々を支援させていただくため、国の地方創生臨時交付金も活用し、住民税非課税世帯への給付、プレミアム付きデジタル商品券「コーちゃんPay」等の実施、事業者支援として、高齢者・障がい者・保育施設や中小事業者などへの各種支援をさせていただきました。
- ② 9月30日には、BEV（バッテリーEV）の一大生産拠点、カーボンニュートラル発信の地として整備が進む「KOSAI バッテリーパーク」からの物流・人流のアクセス道として、バッテリーロードが開通いたしました。こちらは、みんなが選ぶ湖西市5大ニュース2023でも第1位に選んで頂きました。
  - ③ 県内外を跨ぎ、5つの金融機関（(株)しずおかフィナンシャルグループ、浜松磐田信用金庫、遠州信用金庫、豊橋信用金庫、蒲郡信用金庫）とカーボンニュートラル推進に向けた相互協力及び連携に関する協定を締結し、CO2排出量の見える化の推進、省エネルギー設備投資への利子補給等により、市内中小企業者等の脱炭素化を推進していくことといたしました。実績として既に行われているものもあり、件数が増えていくよう、継続して取り組んでまいります。
  - ④ 環境センターの改良工事が完了し、2月から本格的に焼却を再開いたしました。4月1日からは、ごみの分別や回収の方法も変わりますので、引き続き丁寧な周知に努めてまいります。
  - ⑤ 水道スマートメーター導入を拡大し、検針時間の短縮や漏水判定の向上、検針票の電子化を行いました。中部電力や一橋大学等と産学官で連携し、全国初となる時間帯別料金制度（いわゆるオフピーク料金）の導入に向けた実証実験を行いました。
  - ⑥ 市制50周年を機に、5月31日を「こさいの日」と宣言し、5月31日の前後を「こさいWEEK」として、「モノづくり企業による特別授業」、「協賛企業によるLINEキャンペーン」等、市民の皆さんに親しんで頂けるような取組を継続して実施しました。
  - ⑦ スポーツによる地域活性化として、デンソーポラリス、静岡ブルーレヴズ、三遠ネオフェニックス、ジュビロ磐田、ブレス浜松など、各種プロスポーツ等と連携し、地域活性化に繋がっているところです。

#### （令和6年度予算案の概要）

次に、令和6年度予算につきましては、本議会でのご審議をお願いしておりますが、職住近接に繋がるよう、先を見据えながら一步一步、着実に前進し、働くまちから働いて暮らすまちへ繋げるための予算とさせて頂いております。

一般会計は、令和5年度当初予算額に比べ3.2%減の253億6千万円、特別会計を含んだ総額は、2.5%減の445億9千万円を計上させていただきました。

主要な事業は、ここ数年変わらず、奇を衒わず、少子化・人口減少対策、子育て・教育支援、モノづくり産業振興の推進、住宅・工業用地の確保、カーボンニュートラルの実現、観光・シティプロモーションを掲げております。

それでは、令和6年度の事業について、湖西市総合計画4つの柱に沿って説明いたします。

(①安全・安心、医療福祉)

1つ目の「安全・安心、医療福祉」の主なものとして、浜松市・浜松医療センターとの連携協定により、浜松市立看護専門学校への「湖西市枠」創設による市内看護師不足の解消に向けた取組や、湖西病院の助産師外来での産後ケアの充実に努めてまいります。

市内においては、浜名医師会・浜名病院との連携協定により、年末年始に行った機動的な発熱外来、市内医療機関における救急受け入れ態勢の役割分担の明確化・機能分化や医療従事者の相互派遣など人事交流に向けた具体的な協議を行い、発熱外来に加え休日・夜間の診療体制の拡充を中心に、広域連携による市民の皆様への持続可能な医療提供体制に向け進めてまいります。

湖西病院においても、関係する皆様の大変なご尽力により、医師等の増加による医療提供体制や経営改善も同時並行で進んでいます。引き続き更に地域包括ケア病棟による病床稼働率の向上、総合診療専門医の研修受入れ体制整備など、現在策定中の「経営強化プラン」を着実に実行し、地域医療の中核として市民の皆さまの拠り所として、引き続き努めてまいります。

災害に強いまちづくりにおいては、県と連携し新居弁天海釣公園の堤防の強靱化や源太山急傾斜崩壊対策事業など、安全対策を継続し行います。またこれらのハード対策と並行し、これまで延べ6回に及ぶ意見交換会を開催し、市民の皆様から寄せられたご意見を参考に「湖西市津波防災地域づくり推進計画」の策定を進めております。3月18日に湖西市津波防災地域づくり推進協議会から、正式なご報告を頂く予定ですが、ハード・ソフト対策を総合的に組み合わせ、市民の命や財産を守っていきます。

また近年の気候変動等に伴い、局地的な大雨や集中豪雨により、各地で河川の氾濫による浸水被害が多発しています。皆様の生命、財産を守るため、近年のゲリラ豪雨等の傾向と土地利用の変化を踏まえ、河川の再整備を検討し災害に強い地域づくりを推進してまいります。

加えて、火災や大雨等、複雑多様化する災害から、市民の皆様の安全・安心を守る施設として、令和8年度からの運用開始に向け、危機管理部門を複合化した消防防災センター建設工事や通信指令装置等の更新整備を進めています。

市役所庁舎につきましても、DX推進等と合わせ、「行かない書かない」市役所はじめ継続し利便性を向上した住民サービスの提供のため、安全・安心な庁舎建設について検討しています。若手職員による「新庁舎建設検討プロジェクトチーム」や新庁舎建設に係る市民アンケートの内容、デジタル庁はじめ関係者からの窓口DXアドバイザーからの先進的なアドバイス等を踏まえ、「来庁者の視点」「職員の視点」双方から、目指す庁舎について検討を重ね、令和6年度に新庁舎建設基本計画の策定を進めていきます。

## （②結婚・出産、子育て、教育）

2つ目の「結婚・出産、子育て、教育」につきましては、妊娠期から子育て期にわたる支援をこれまでも行ってまいりましたが、更なる少子化対策として、出会いの機会の創出、結婚・出産・子育て期、小・中・高校といったライフステージに応じた切れ目のない支援を拡充し、安心して子どもを産み、子育てできる環境を整えます。

コロナ禍はじめ様々な要因も相まって、出会いの機会は減少しております。近年の婚姻のきっかけとして、アプリ婚の割合が約20%というデータもあり、国内最大級の婚活アプリ「ペアーズ」を活用し、男女の出会いの機会、縁結びに繋がります。また産後のお母さんを対象に、先ほど申し上げた湖西病院の助産師外来や在宅助産師の訪問等により、身近な場所で気軽に乳房ケアを含む授乳相談が低料金でできる利用券を配布します。特定不妊治療については、県の新設補助ではカバーしきれない部分について、基礎自治体としても出来る限りの補助を創設いたします。保険診療外で全額自己負担となる、高度な治療も選択しやすくなるよう、きめ細かい支援を行ってまいります。

のびのび預かり事業については、主に保育所などに入園していない満1歳から小学校就学前のお子さんを持つ保護者の育児負担の軽減を図るため、預かりの実施日数を週4日から5日に拡大します。

発達支援に関しては、新居地区の「のびりん」に加え、旧新所幼稚園を改修し、発達に課題のある児童とその保護者に対する相談支援機能を備えた、市内2カ所目の地域子育て支援拠点を開設します。また、民間こども園等へ業務委託し、市内3カ所目の地域子育て支援拠点の設置について準備を進め、市内3地域に子育て支援拠点施設が設置されることにより、支援体制を充実してまいります。

学校給食については、子育て世帯のアンケート等に基づき、負担軽減に繋がり、未来を担う子どもたちの健やかな成長のため、中学校や特別支援学校中学部に在籍する生徒さんの給食費無償化を開始します。加えて、子どもを産み育てることが幸せだと感じていただけるような多子世帯への支援として、子育てにおける経済的不安を軽減するため、中学・高校に入学する第3子以降の学用品を助成する事業を開始します。出来れば、国策として更に少子化対策を充実して頂くよう、引き続き国にも働きかけていきたいと思っております。

更に、子どもを取り巻くさまざまな課題の解決に向け、いじめの早期発見・防止、解決に向けて、こども未来部に「いじめ防止対策準備室」を新設し、事業開始のための準備を進めてまいります。またスクールロイヤーや生徒指導相談員を新たに拡充・活用し、学校が指導・助言を受けられる体制を整え、子どもたちや保護者が安心できる学校づくりに、引き続き取り組んでまいります。

## （③産業振興）

3つ目の「産業の振興」については、

引き続き、市内のモノづくり産業の持続的な発展のため、1次から3次産業まで幅広い人材育成や産業ネットワーク推進といった企業支援を一体的に推進します。人材育成においては、近年、モノづくり推進室との連携により市内企業にご協力を頂いて、年間を通じた出前講座や工場見学などを引き続き実施してまいります。また、様々なモノづくりイベントの開催や他団体のイベントへの出展などを通じて、子どもたちがモノづくりに触れる機会を創出します。

「高校生の職業訓練」については、湖西・新居高校在生に加え、市外に通学する湖西市在住の高校生まで対象を拡大します。また、新居高校による科学系カリキュラムの全校生徒への拡充など、地元企業と連携した新たな取組により、地域の産業に対する再認識、そして愛着をもっていただき、将来も湖西市で活躍する人材の育成に努めてまいります。

中小企業の支援においては、企業支援サイトの充実、補助金診断システムの活用促進や事業者向けLINEの配信に加え、新たにInstagramを活用した相互の情報共有により、モノづくり人材の育成や中小企業支援を一体的に進める産業ネットワークの構築を進めてまいります。

更に、土地利活用の一体的推進のため、新たな住宅用地の確保を進めるべく、住宅用地の確保に向けて、まちなかの未利用地を活用し、宅地開発促進のための土地提供者や開発事業者への奨励金制度を引き続き行うことに加え、モノづくり企業の創業や誘致を視野に、新たに賃貸住宅の建築促進のための奨励金制度を創設いたします。特に子育て世帯向けの賃貸住宅建築を促進してまいります。湖西市内で働く方が増える中、まずは賃貸住宅、それから戸建てに居を構えていただき、移住・定住に繋げていけたらと考えています。

新たな工業用地は、市内・市外企業から今でも20-30haのニーズを頂いており、企業誘致を促進するため、整備を引き続き推進してまいります。具体的には、

- ① バッテリーパーク北側の地区で、新幹線を跨ぐ道路の整備と地域の面整備を一体的に推進してまいります。
- ② 浜松湖西豊橋道路IC予定地の周辺について、工業用地の開発可能性調査を継続し、多くの需要に応えてまいります。

また、公共交通につきまして、誰もが安心して移動できるよう、コーちゃんバスの路線見直しや、コーちゃんタクシーのJR駅周辺地区を含む市内全域化を行います。また、市内企業と連携した企業シャトルBaaS事業の持続可能な実施を継続します。

加えて、インバウンド回復による観光地などでの需要の増加、人口減少や高齢化に伴うドライバー不足、過疎地域における通院・買い物などの「移動の足」の確保等が、全国各地で大きな課題となっています。持続可能な公共交通の手段の一翼として解禁の議論が進んできている「ライドシェア」については、この4月からこれまで過疎地域や福祉目的に限定されていた自家用有償運送制度が拡充されます。

これは昨年後半から、全国約 300 の首長有志の会である「活力ある地方を創る首長の会」のうち、108 自治体で構成された「自治体ライドシェア研究会」でスピード感を持った議論が重ねられてきました。本市も先駆的に参画しています。

同時にライドシェアは、一方的でなく地域の交通事業者との共存共栄が必要であり、浜松市・磐田市と交通事業者の 4 者で、「持続可能な地域公共交通」についての勉強会を行っています。中長期の未来を見据え、病院や買い物の地域の足として持続可能なものとなるよう、自治体ライドシェアの実装に向けて準備しています。

#### (④観光・シティプロモーション)

4 つ目の「観光・シティプロモーション」について、新居弁天地域の一体的な再開発については、年間を通じて賑わいが生まれ、市内外から人が集う魅力のある観光拠点“浜名湖パークビレッジ”が、3月9日にグランドオープンいたします。現在、ドッグランやセンターエリアの整備を進めています。センターエリアでは、温泉足湯、地元グルメや農産物等を販売するマルシェを開催します。オートキャンプやペット同伴のキャンプが可能なキャンプエリアは、既に年末年始や、先日の連休にはプレオープンしたキャンプサイトが満員で賑わっているとお聞きしており、隣接する浜松・豊橋市にはない観光スポットとして、湖西市の魅力を発信してまいります。

また、「浜名湖花博 2024」が3月23日に開幕します。地元企業と連携したマルシェの開催や、湖西市内の棧橋と花博会場を舟で繋ぎ、環浜名湖で湖西市などの魅力を発信してまいります。なお浜名湖花博 2024 の閉幕後も、舟運観光等を継続することにより、環浜名湖一帯での魅力の発信を目指し連携して進めていきます。

市制 50 周年を機に誕生した「うなぼん」につきましても、誕生以来、市内幼・保育園こども園、各種イベントやスポーツ会場等へ出かけ、湖西市のイメージアップや知名度向上に向け、頑張ってください。こどもから大人まで、全国から多くの応援をいただいております。更なる知名度向上のため、うなぼんテーマソングを募集したところ、41 曲もの応募を頂きました。現在、応援団の若手職員や幼稚園・保育園職員、音楽関係者などで選考を進めており、5月31日の「こさいの日」にお披露目を予定しています。

#### (中長期・横断的な政策)

いま申し上げた、4 つの柱に加え、中長期かつ横断的な政策として、2050 年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す、湖西市ゼロカーボンシティ宣言に基づき、「省エネルギーの推進と再生可能エネルギー等の普及」等の検討を進めます。現在、市民・事業者や高校生はじめ各関係者と「湖西市地球温暖化対策実行計画」の意見交換をすすめており、3月には CO2 削減等に向けたロードマップを策定します。また省エネ推進、再生可能エネルギー普及等の具体的取組を更に加速するため、環境部に脱炭素推進室を設置し、推進体制の強化を図ります。引き続き県内外の 5 つの金融機関などと連携し、CO2 排出量の

見える化、省エネルギー設備投資への利子補給等により、市内中小企業者等の脱炭素化を推進してまいります。また、再生可能エネルギー普及に向け、現在、市内の再生可能エネルギー導入容量の9割以上を占める太陽光発電以外の再生可能エネルギー電源の導入可能性について検討します。具体的には、湖西浄化センターにおけるバイオガス発電の導入に向け、次世代型バイオガスの事業の実現性、市内の汚水処理の統一化等について、可能性調査を行います。

D Xの推進につきましては、先ほども申し上げましたとおり、マイナンバーカードの普及、コロナ禍における新たな生活様式や働き方の多様化等、市民生活や行政庁内において、飛躍的にD Xが進展しております。今回、行政庁内ではフリーアドレス・固定電話廃止に向けた取組や電子決裁等のデジタル化を進めます。また、市役所窓口D Xとして、窓口での手書きの申請をなくし、必要な手続きをデジタル化する「書かない窓口」の導入について準備を進めてまいります。

市からの情報発信につきましても、市公式LINE等、SNSの活用や、現在試行しておりますテレビのdボタン広報を本格導入し、24時間、365日いつでも必要な時に情報の受け取りが可能となる環境を整え、タイムリーかつ伝わる情報発信に努めます。

また、空き家対策として、空き家の状況を管理するため、電子台帳の導入を開始し、空き家バンクで360度カメラを利用した内覧を可能といたします。

また、市の公共施設は、昭和40年代半ば以降に整備した施設が多く更新時期を向かえており、財政負担の軽減や平準化という考えから、中期的な再編計画を定めています。新居地域センターのバリアフリー化、機能改修については9月オープンに向け、整備を進めております。旧新所幼稚園は子育て支援センターに発達相談支援機能を加えた「地域子育て支援の拠点となる施設」として整備します。消防防災センター、給食センター、各学校の長寿命化等を引き続き進めてまいります。

また、老朽化の著しい市役所、湖西病院の整備も計画的に実施する必要があり、市役所は令和11年度オープンに向け計画的に準備を進めていきます。さらに中期的には、子育て支援センター（のびりん）・老人福祉センター・新居地域センター等の後継となる、にぎわい創出施設についても、複合化を視野に、計画的に進めてまいります。

（結び）

以上、令和6年度予算案の主な取組についてご説明させていただきました。

年明けや、予算発表時には、今年の一文字を「結」として発表させていただきました。人と人、市民・地域と行政、次世代への継承など、具体的には、

- ・バッテリーパーク、バッテリーロードを通して日本各地を結ぶ
- ・縁結び、出会いを通じた繋がり、ライフステージに沿った子育て支援等、市民に寄り添った支援
- ・舟運をはじめ、観光や移住・定住等のシティプロモーションによる各地域との繋がり



・各分野における人材育成、未来を担う子どもたちの育成  
など、さまざまな「結び」を大切にしていきたいと思います。

年明け1月16日には、Los Angeles Dodgersの大谷翔平選手から「野球しようぜ！」  
のメッセージとともに、市内小学校に「サイン入りグローブ」が届けられました。

子どもたちに、野球に興味を持つことに加え、夢を持ち、挑戦すること、勇気づける  
ためのとても有意義なきっかけになったと感じ、感謝しています。

結果・成果を出すには、まずは、関心を持ってもらう、興味を持ってもらう、そのた  
めには、こうした「種」をまくことからスタートします。

引き続き、種をまき、芽が出て、花が咲き、実を「結」び、湖西市が、10年後、50年  
後も住み続けたいまちとなるよう、「職住近接」のため引き続き全力投球していきたいと思います  
ので、議会をはじめ皆さま方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

以上、私の施政方針とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上